



免费小说



烏越敦司 atushi torigoe

末日

核爆弾 核轰炸

二〇三X年。二百三个X年。この日も地球の空は青かった。空地球这天是蓝色的。が·····。还有.....

「大変です首相。アメリカの核爆弾が飛んで来ました！」 “这是非常总理。美国的核炸弹来到飞！”

「何だって！それで防げたのだろうな。」 “即使有什么！我不知道是可以避免被它”。

「はい、何とか太平洋上で爆発しましたが·····。」 “是的，但我设法在太平洋爆炸.....”

これは大変な騒ぎとなった。这已成为一个非常混乱。

アメリカは本年度からロボットを使って軍の指揮にあたらせていたのだ。美国我不得不使用机器人从本财年打了军队的命令。

右の事件につきアメリカは、もちろん公式に謝罪した。每个事件右侧美国，当然是正式道歉。だが次の日、中国とパキスタンが核兵器を飛ばし合った。但第二天，中国和巴基斯坦拥有彼此跳过核武器。

先制したのは中国だったのだ。这是中国的先下手为强了。これについて世界中から非難があがったが、中国軍首脳は、这来自世界各地的谴责上升了，但中国军方领导人，

「われわれは軍の指揮を優秀なアメリカのロボットに任せている。文句があるならアメリカへ言ってくれ。」 “我告诉他美国是否存在。抱怨说，军事指挥官都留给了有才华的美国机器人”。

と声明した。这是一个声明。

世界中でロボットが活躍するようになって久しい。长时间一直在使机器人活跃在世界各地。

アメリカは、もとよりわが日本でもレストランなどは大抵ロボットだし、今年からプロ野球選手も一人ロボットが現れたのだ。美国，以及它通常是机器人，如餐馆在我们这样的日本，它也是一个职业棒球球员是一个人机器人从今年出现了。

その結果は、·····ロボットはオールスターに出場したのだった。其结果是...机器人在全明星竞争了。アメリカの国防省だってロボットが大分いるといわれている。即使是防御的美国国防部已表示，机器人的出现大分。

もちろん先の戦争は国連問題となったのだが、国連の職員もみんなロボットなのだ。当然，未来的战争中它成为联合国的问题，每个人机器人还联合国工作人员。

ロボットは給料もいらなし、故障すると他のロボットが修理することになっている。机器人是不需要任何薪水，其他机器人的故障是应该进行修复。開発はアメリカでされたが、車と同様わが国でも近年はロボットの開発は目ざましい。虽然发展已经在美国，近几年还在车内以及机器人的日本的发展是显著的。

ある会社では重役をロボットにしたとか、パチンコ屋の従業員は、みなロボットだし、サラ金の取立てもロボットがするそう。也许你和某公司行政机关的机器人，Pachinkoya员工，它的所有机器人的萨拉金也有这样的机器人集合。

もちろん失業者は増えたが、大部分の人は余暇を楽しめるようになった。当然、失业率有所上升，但大部分的人前来享受休闲时光。それは喜ばしい事だったのだが・・・。它是感到高兴的是，但是...

そうそう、国連の問題を話さなければならない。哦，是的，它必须以问题的联合国发言。結局国連では、中国の軍事ロボットのスイッチを切れという事になった。最終、在联合国，这被认为是关中国的军用机器人的开关。

しかし。然而。このロボットのスイッチは簡単には切れないのだ。这个机器人的开关是他不那么容易。

しかもリーダーのロボットを他の多数のロボットが守っている。此外，机器人的领导者具有许多其他机器人防护的。これらのロボットをこわすには相当な国家予算をふいにする事になる。为了打破这些机器人将是吹显著国家预算。

中国には、それは出来なかった。在中国，它不可能。中国は国連を脱退した。中国已离开联合国。パキスタンは国家の予算の関係でロボットは軍には置いてなかった。巴基斯坦机器人没有把军队有关国家预算。

この戦争の結果は？这场战争的结果呢？世界中が注目した。在世界各地一直专注。結果は中国の圧倒的勝利に終わったのだ。其結果は我在中国的压倒性胜利而告终。パキスタンは降服した。巴基斯坦投降。それでも、戦争が終わると中国はパキスタンを占領せずに国連へ復帰したけれど。尽管如此，但是当战争结束了中国恢复了在联合国没有占领巴基斯坦。

だが、パキスタンの都市は惨澹たるもの。但是，巴基斯坦的城市桑坦德服务。中国もかなりの打撃を受けている。中国也获得了显著的打击。核の雲はあちこちで上がった。核云分别上涨在这里和那里。この事は世界的問題となったが、アメリカの大統領は、但是这件事情已经成为一个全球性的问题，美国总统，「核の雲を無にする爆弾を発明した。」“我发明了炸弹的无云的核心。”と発表した。会上宣布。

そして、太平洋上で核を爆発、そのすぐ後にその爆弾を爆発させ、言葉通り、核の雲を消したのだ。然后，核在太平洋发生爆炸，不久后引爆炸弹，从字面上看，它是关云的核心。この新兵器は世界中が買い求めた。这个新的武器购买世界各地。そして、ついに世界的な核戦争が始まったのだ。然后，它终于全球核战争的开始。全面的核戦争になって恐れられていたのは核の雲だった。一直害怕成为一个完整的核战争は核云。しかし、これで、その恐れはなくなったのだから。然而，这一点，因为的可能性不再。だが、核の雲を無くす爆弾は輸出されたものは効果のないものばかりだったのだ。但是，炸弹，以消除云计算的核心，他有这样的已经远销刚刚无效的东西。それで、世界の大都市のほとんどは壊滅した。因此，世界上绝大多数的主要城市被摧毁。ホワイトハウスでは大統領が得意気に話している、在白宫的总统谈话自豪，「どうだね、わたしの立てた作戦は？」“你在做什么，我的正直策略是什么？”

「上々ですよ。」“这是最好的。”と副大統領が言った。而副总裁说。「これで、あとは日本とスイス位だね。」“现在，这是日本和瑞士的位置了。”大統領は、世界中の映像を見ながら話す。总统，说话一边看世界各地的视频。「それも時間の問題ですよ。スイスは、ともかく、日本なんてどうにでもなるんですから。」“这也是迟早的事。瑞士是，在任何情况下，南特因为我做了随时如果日本。”と国防長官が発言した。国防部长曾表示。「それより、」“从”と副大統領は発言する。和副总统说话。「日本のやつらも、大統領が、まさか宇宙人だなんて思ってもないでしょうねえ。」“日本EM甚至，可能的Une甚至不是没想过南特的外星人总统”。「ああ、彼らの頭には輸出しかないからなあ。」“哦，因为只有出口到他们的头上。”と大統領は答えて、笑った。总统回答说，笑了起来。「しかし、わたしを受け入れた君達は賢明だったよ。」“可是，你们这是明智的接受了我。”「そうですとも。われわれは、もう日本には勝てないと思っていたのですから。」“即使我们是，我们是，因为我觉得我不能在日本赢了对方。”

悔しそうに、副大統領は述べた。在懊恼，副总裁说。「まあ、日本が、いくらがんばろうと我々の星の文明には、とても及ばんよ。現に・・・。」“好了，日本是，在我们的文明尝试更难的，非常Oyoban'yo的明星。其实.....”と、話して大統領はニヤリと笑った。而且，总统说着笑了起来笑着。「あの中国の軍事ロボットも、ここホワイトハウスで操作していたのだし、核の雲を消す爆弾も我々の星のものさ。」“中国军队的机器人，来我一直在这里工作了白宫，那些炸弹关闭我们的明星的云的核心。”「大統領、世界はやはり我々の星のものさ。」「主席、我的世界仍然具有着共同的我们。」

「大概、世界はやはり我々アメリカのものじゃない。」 主席，我的世界仍然是住在美国的我。」

と発言してCIA長官が立ち上がった。口語和上升中央情報局局長。

「そうだと。乾杯しよう。」 “我也是如此。试图敬酒。”

と述べると大統領はグラスを取った。为了描述总统接过酒杯。

「日本に核戦争を仕掛ける日に。」 “当天发动对日本的核战争。”

「乾杯！」 “干杯！”

アメリカ合衆国首脳一同はグラスを合わせた。 美国峰会每个人都是玻璃的组合。

無口な日本の首脳 沉默的日本峰会

時の首相は大変な無口で知られた人だった。首相在当时是谁是一个非常沉默寡言已知之一。長い文章は喋れないらしい。 长句子似乎不说话。

「首相、大変です。今度は本当の核が・・・。」 “总理非常。现在真正的核心.....”

首相官邸にいた、わたしに、防衛大臣が電話してきた。是在总理办公室，对我来说，国防部长来电话。

「すぐ避難を！」 “马上撤离！”

その後の電話の声を聞く前に、わたしは地下の核シェルターへ逃げた。之前你听到的后续手机的声音，我跑了到地下室核庇护。十分後、日本の首脳は皆、核シェルターに集まった。 够后，日本领导人都聚集在核庇护所。

「首相、どうします？」 “总理，你怎么办？”

日本の首脳に一同は、異口同音で聞いた。日本每个人的领导听到一致的。

「そうだな。われわれだけが生き延びればいいではないか。とても勝ち目はないよ。」 “是的，我们只有不做

我Ikinobire，这是非常取胜是没有的。”

と、わたしは答えた。有一次，我回答。

「そんな・・・。」 “那.....”

首相一同が、その時わたしは上の席で聞いていた。 领导每个人都是，所以我在不在焉听说过。なぜ

なら、わたしは、アメリカ製のロボットだから・・・。这是因为，因为我是美国制造的机器人....

免费小说

<http://p.booklog.jp/book/106306>

著者：鳥越敦司 atushi torigoe

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/dontanine/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/106306>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/106306>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社ブックログ